

学校経営目標	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価		
			達成状況	評価	達成状況	評価	
1 学習指導 (真の実力を身に付けさせる)	(1)授業を大切にさせ、基礎学力の定着を図る。	授業の相互参観が半数程度にとどまっている。公開授業へ積極的に参加し、教育実践の共有を図る。公開授業週間に全教員が1回は他の授業を見学するように促す。	5月の公開授業では、32名の保護者の参観があった。6月に校内向けの公開授業では延べ17名の参観があった。また各H Rに電子黒板が設置された。	b	11月の公開授業週間では、教員間の相互参観が延べ18人とどまった。公開授業週間以外でも相互参観し、学びの環境を作りだした。9月から各ホールルームに設置された電子黒板は有効に活用されている。	b	
	SDGs関連蔵書の充実を図り、読書活動を推進する。	SDGs専用のコーナーを設置。一人当たり年間貸出冊数4冊以上。	設置済み。1.81冊(7月末)	b	SDGs関連書籍は設置済みである。一人当たりの貸出は2.42冊。	b	
	(2)新しい学習指導要領の理念と内容を理解し、主体的な学びの充実とコミュニケーション能力の育成を図る。	新しい学習指導要領の内容を踏まえ、新しい評価基準、年間指導計画とシラバスを作成し、実施する。	年に数回、教務委員会を開催し、新しい教育課程についての議論を深め、評価の方法について、3観点を意識して改訂を行う。	シラバスは、昨年度内に作成が終わり、入学時に配付することができた。評価の方法と年間指導計画については、各教科からの案を点検・修正して完成させた。	b	新教育課程への移行は順調に行うことができている。令和6年度までの年次進行となるので、教科書選定には特に注意を払いたい。	b
	言語活動の充実を図り、コミュニケーション能力の向上を目指す。	現状、自分の考えを伝え、人の考えを聞くということができない生徒が多い。座学、実習において、コミュニケーション活動が行えるようになる。	様々な機会をもうけて、コミュニケーション活動ができていると考える。ただし、マスク越しであるので、発声に気をつける指導も必要である。	b	口頭試問などを利用して、正しく聞くこと、それに対する応答など、コミュニケーション活動が適切に行える生徒が増えた。理解力が不十分な生徒に対しては、今後も指導を継続する。	b	
(3)一人一台端末の活用により、生活支援とともに授業の効率化と家庭学習の習慣化を進める。	他課・室・委員会と連携しながら一人一台端末の活用を推進し、授業の内容をわかりやすく伝えるときにも、理解度を測る手段として運用を進めていく。	昨年度、新型コロナウイルス感染症拡大ともなう臨時休業中に、リモート授業の実施が広がった。さらに活用方法を考え、1、2年生の授業では積極的に活用していくよう進めていく。	コロナ感染拡大により、リモート授業の実施は昨年度より増えた。一人一台端末の活用は進んでいるが、さらに有効な手段を検討中である。併せて電子黒板の活用も図りたい。	b	一人一台端末の活用は定着しつつあり、通常の授業で有効に活用する場面は多く見られる。学力向上プロジェクト委員会と連携して、教員のIOT研修を開き、情報共有やスキルアップを図った。	b	
	技術者の操作をChromebookで撮影し、家庭での技能習得に向けた取り組みを行う。	資格検定取得に向けChromebookを活用し必要な技術収集能力の向上を目指す。	記録用写真などは撮影できたが、Chromebookを使用した映像は、現在の段階で着手できていない。	c	危険物模擬問題、計算技術検定3級問題のPDF化など各科で共有のデータ準備・活用を行うことができた。	b	
2 生活指導 (ぬいやりの心を育む)	(1)気持ちの良いあいさつを励行し、整理・整頓、清掃に努め、基本的な生活習慣を確立する。	全教職員の間で共通理解を図り、科の壁を越え全員で指導する。生徒会活動や校門指導を通して生徒自ら気持ちの良い挨拶が出来るようにする。	頭髮指導において生徒課最終指導になった者が0名の時もあった。今年度も最終指導ゼロを目指す。生徒自ら挨拶ができている生徒は増えている。地域に誇れる素敵な挨拶ができる人数をさらに増やしたい。	b	頭髮指導(一学期)において生徒課最終指導になった者は0名だった。今年度も減少できるような声かけをする。生徒自ら挨拶ができている生徒が増えているように感じる。元氣よく挨拶できる人数を増やしたい。	b	
		毎朝学校で疾病予防のため健康管理を行う。	適切な保健指導を行い、各クラスの欠席を減少させる。	少しずつではあるが、挨拶をすることは浸透しているように思う。健康管理は引き続き行う。	b	挨拶はよくできる。地域の方からの良い知らせもあった。健康管理は、安定していない部分もあり、引き続き行う。	a
	(2)生徒・保護者との信頼関係を一層密にし、きめ細かな指導を行う。	遅刻、早退、欠席連絡など、保護者との連絡を密にする。生徒指導に関する事項については保護者理解の向上を図る為、早く丁寧に連絡する。	保護者との連携はとれていると考えている。継続していきたい。また、担任の密な連絡があり学校の指導方針にご理解いただける保護者が増えてきたと感じる。	遅刻、早退、欠席やコロナ関連の連絡は密に取れている。生徒指導に関する事項については、学校の指導方針にご理解いただける保護者はいるが、丁寧な連絡を続けたい。	b	担任の先生を中心に保護者とは密に連絡が取れている。本校の指導にご意見をいただく場面もあったが、粘り強く説明しご理解いただけるよう努めた。	b
	(3)人権教育を充実し、安心して過ごせる学校づくりを一層推進する。	面談やアンケート、欠席数調査、心理検査(アセス)等の情報を集約し、担任や教科・学年団と共有する。専門家や関係機関のアドバイスも受け、生徒や保護者に支援や合理的配慮を行う。	課会を定期的に開き情報を共有し、必要に応じて生徒や保護者に声をかける。個別の状況に応じてケース会議を開き対応する。「教育相談保護者の会」を年2回開催し、SCによる相談やアドバイスをを行う。	課会を定期的に開くのは難しかったが、アンケートの集約等、協力して業務を行うことができた。SC・SSWとの連携も密に行い、難しいケースに対応してもらった。「教育相談保護者の会」もSC・SSWを交えて実施できた。心理検査の方法が確立できていないのが課題である。	b	学校主導の心理検査については課題を残したままになってしまったが、今年度もアンケート結果や担任からの相談を受け、SCやSSWとも連携して対応し、課としての役割を兼ね果たすことができた。	b
(4)特別支援教育の充実を図り、多様な特性に対応できる教育体制の強化を進める。	ケータイ安全教室を実施し、SNS上での言葉がどのように相手に伝わっているのか考えさせる。今年もスタンバイを活用していきたい。	発言や画像、個人情報の取り扱いがまだまだ未熟と考える。各学期に連絡や担任の指導でSNSの利用方法を理解させたい。	SNSの利用はまだまだ未熟で指導の継続が必要である。4月にケータイ安全教室がmeetで実施できた。7月にStop itからスタンバイへの移行や登録ができた。	b	スマートフォンの利用については、まだまだ理解不足の面も見られ、他人のパスワードを解除したり、盗撮をしたりとトラブルの原因になっている。相手の気持ちを考えることができるように、また使用方法についても粘り強く指導していきたい。	b	
	授業中の生徒の反応を見極め、また、朝のSHRで様子をチェックする。	生活アンケートにおけるいじめ等の人間関係のトラブルに対応できるようにする。	継続中である。	b	生活アンケートの情報から対応を試みたが、十分な対応できていないケースもあり、今後の課題である。	c	
	学校生活アンケートを活用し、生徒の具体的な問題の把握に努める。結果を共有し、さらに授業のユニバーサルデザイン化を進める。	学校生活アンケートに学習や生活面での困難を具体的に記述させる。内容を集約し、指導に生かしてもらえようとする。	学校生活アンケートを実施し、問題を把握し対応することができた。個々への対応は、担任を中心に行っているのが現状である。	b	授業のユニバーサルデザイン化のような、学校全体での取り組みは果たすことができなかったが、個々のケースについては担任と協力して対応することができた。	b	
	保護者との連絡のみならず、教育相談課との連携を密にし、各科の科会を利用し、情報の共有化を図る。	各科で毎週行われる科会で細かい情報交換を行い、両担任、科長を含めて教育相談と連携をとる。	継続中である。	a	科会や教育相談課と情報共有しながら連携に努めた。	b	
3 進路指導 (目標を明確にさせる)	(1)インターンシップを推進し、キャリア教育の充実を図る。	企業にインターンシップ可能な会社の確保につとめる。	企業に助けをいただき夏季のインターンシップも実施できた。	b	コロナ前の規模とはいかないが、予定のインターンシップは実施できた。	b	
		様々な場面で、インターンシップの意義について説明し理解を深める。	新型コロナウイルスの影響で多数の参加を望めないが、進路選択時の参考となっている。	b	受け入れ許可の出ない企業もあったが、ある程度の実施することができた。	b	
	(2)積極的に求人開拓を行い、生徒の自己実現を支援する。	新規求人開拓に加え、今まで培った企業との信頼関係を大切にします。	生徒全員が希望の就職地域に就職できるよう、特に希望の多いこの近辺(倉敷、水島)の求人確保に努める。	例年より多くの求人が確保できた。	b	例年より多くの求人を確保できた。	b
		進路指導課と連携し、生徒の希望実現に向け企業訪問の充実を図る。	他科との連携を充実させ、生徒の希望実現を支援できる。	指導を継続する。	b	担任を中心に生徒・保護者の希望に添った形の進路指導は出来たと考える。最後まで支援していきたい。	b
(3)進学指導体制の充実を図る。	進学を目指した生徒に適切な情報提供と進路指導を行い進学に必要な学力向上をはかる。	教科の協力も得て、個に対応した指導を継続する。	3年生に対しては個別指導を行っている。1、2年生に対しては2学期中旬から個別指導、学習指導を行う予定。	b	個別の指導が十分できたとは言えない。さらにやり方を工夫したい。国立大学、有名私大の合格を果たすことができた。	b	
	進学希望者に適切な目標を定めさせ、補習や自学自習プランに参加させる。	進路指導課と連携を取りながら早い時期より目標を決めさせて対策を立てていく。	ほぼ本人の希望通りの進路を受験することになる予定。	a	目標に向け準備を結果、希望通りの進路を実現することができた。	a	

令和4年度の具体的な学校経営目標・計画

学校経営目標	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価		
			達成状況	評価	達成状況	評価	
4 魅力ある工業高校づくり (生き抜く力を育む)	(1) 工業の各分野の学習において、「ものづくり」の意識を高める取組を重視する。	各種技術顕彰取得者の増加に努め、ものづくりへの意識向上を目指す。	各種資格検定取得一覧を活用し、表彰に向けた啓発につなげる。	ジュニアマイスター顕彰16名、岡山県高等学校職業教育技術顕彰受賞13名とコロナ、検定料の値上がりによる受験者減少が感じられる。	b	コロナによる影響が強い学年であり顕彰表彰者は減少する見込であるが、表彰対象者への申請に向けたサポートは十分に実施できている。	b
		環境イベントや異校種交流学習に積極的に参加し、自分たちの学習内容について、発表や指導する体験を通して「ものづくり」の意識を高める。	環境イベント4回、異校種交流 6回参加	異校種交流 3回行った。	b	異校種交流を6回実施した。また環境イベントへは2回参加することができ、順調に継続できている。	a
	(2) ものづくりを通して、エネルギー環境教育をさらに発展させる。	環境学習センターと連携して、環境に配慮したものづくり教室を小学生対象に行う。	環境学習センターと連携して、生徒主体のものづくり教室を行っている。今年度は30名の小学生を対象に行う。	2年生12名が講師として参加してくれた。参加保護者からも概ね好評評価を得ることができた。	b	2年生12名が講師として参加してくれた。参加保護者からも概ね好評評価を得ることができた。次年度の依頼もいただいている。	a
		BDF、燃料電池、新素材の技術を活用して環境教育を推進する。	環境イベントに積極的に参加し、自分たちの学習内容を発表して理解を深めさせる。	イベント開催無しのため参加できず。	b	倉敷環境フェスティバル、リサイクルフェアinくらしきに参加することができた。	a
	(3) 資格・検定の取得を一層推進する。	資格検定の手引きを作成し、計画的な資格取得を目指す。	昨年度以上の受験者数、合格者数を増加させる。	各科の特色ある資格検定の実施や校内全体への周知徹底ができていた。また、テキスト購入のサポートなど実施できている。	b	模擬問題や過去問題のPDF化の実施、各資格検定の料を超えた周知徹底による活用ができた。	b
		積極的な資格取得に向けて声かけを行う。	係と連携しながら積極的な資格取得を促す。	指導を継続する。	b	継続的な指導により例年並みの結果である。	b
	(4) 特別活動の活性化を進める。	各行事において、生徒会や各委員会の役割を明確にし、より多くの生徒が行事の運営に関わることをできる体制をつくる。また、各行事の様子をホームページを通じて発信し、本校の魅力を伝える。	例年の行事を見直ししながら計画を立て、学校全体で取り組めるように働きかける。各行事ごとの情報を行事終了1週間以内をめどにホームページにアップし、本校の魅力を伝える。	社会や学校の状況を踏まえながら、各行事を見直し実施することができた。また、各行事の情報も1週間以内にホームページにアップすることができた。	b	社会や学校の状況を踏まえながら各行事を見直し、文化祭については3年ぶりに保護者を招いて開催することができた。また、各行事の情報もおおむね1週間以内にホームページにアップすることができた。	b
		不安定な社会においても地域貢献活動に参加できるように改善を図る。	学年団や学科と連携し、地域貢献活動の回数不足問題の改善を図る。現在の実施回数は、2年生平均2.92回、3年生平均3.60回である。	実施が困難な状況の中、学科・学年団の協力を得て昨年度よりも実施ができていた。現在(8/26現在)1年1.71回、2年4.53回、3年5.12回(3年で全員5回実施は2クラス)(R3年度8/27申請:1年1.13回、2年1.96回、3年4.48回)	b	実施が困難な状況の中、学科・学年団・課などからの協力を得て、全体的には昨年度より実施ができた。現在、1年3.07回、2年5.16回、3年5.60回である。(12/20現在申請)3年生5回未満14名となっているが、今後5回まで完了する予定である。	b
	(5) MECLA思想の継続とプロジェクトの推進。	文化祭や球技大会などの学校行事の際に、生徒の主体性やコミュニケーション能力、そうぞう力の育成を図ることができるよう、HR担任や専門科と連携する。	学校行事の際には、各種委員の生徒を中心に準備・運営をしているが、一部の生徒に負担が集中しているクラスも見受けられる。クラス・専門科・学校全体で行事に取り組むことのできる環境作りを取り組みたい。生徒の主体性やコミュニケーション能力が育成できるようにHR担任や専門科と連携する。	必要に応じて生徒と対話する機会を設け、生徒の意見を反映させながら行事を計画・実施することができた。	b	必要に応じて生徒と対話する機会を設け、生徒の意見を反映させながら行事を計画・実施することができた。また、フォームを用いて各行事の反省事項を集約し、来年度への改善につなげられるように準備ができた。	b
		課題研究において、他科との連携を図る。	連携を図り、全国大会へ出場する。	他科の協力を得ることで、お互いの刺激になっている。	b	重なる分野での協力を行うことで、お互いの強みが発揮されていると考える。	b
(6) スーパーエンプライメントハイスクール事業の推進と活用。	スターリングエンジンによる発電装置を完成させる。	ロケットストーブ、スターリングエンジンを完成させる。	継続中である。	b	製作に関しては継続中である。(現在50%程度)	b	
	スーパーエンプライメントハイスクール研究開発事業を進める。進捗状況をホームページに載せる。	新エネルギーと新素材の活用を見据えながらプロジェクトを進める。	スーパーエンプライメントハイスクール研究開発事業開始、廃プラスチックの有効利用の取り組み中。	b	廃プラスチックについて、有効利用の研究、資源循環の検討、燃焼装置の研究、海洋プラスチックごみの研究がすすんでいる。	b	
5 開かれた学校づくり (社会に貢献する)	(1) 授業公開、授業評価等を活用し、授業改善を図る。	保護者対象の公開授業週間、教員対象の公開授業週間を実施する。また、授業評価アンケートを実施し授業改善の機会を設ける。	保護者向け公開授業及び公開授業週間を年2回設定し、教員同士の授業参観を促進する。合計15日間以上を設定する。	5月9日から13日の保護者対象の公開授業週間では、32名の参観があった。教員同士の授業参観では、グループミーティングによる配信を試みた。	b	11月に予定していた保護者対象の公開授業週間は、コロナの感染が拡大したため、急遽取りやめた。生徒に対する授業評価アンケートは、初めてフォームを使って行った。	b
		各科において、科内で実習・授業見学を行い良い点を共有する。	授業に対する生徒の不满が少なくなる。(アンケートより)	実習に関する情報交換が行われている。	a	科内で実習についての意見交換が行われ、「問題点の解決」につながっている。	a
	(2) 中学生や保護者への積極的な情報提供を行うなど、広報活動の一層の充実を図る。	中学生保護者対象説明会を年2回開催する。また、学校案内やオープンスクール用チラシの改訂を行う。ホームページを更新し、積極的に情報発信を行い、本校の魅力を伝える。	令和4年度の入試では、大きく定員割れし、結果的に25名の欠員が出た。令和5年度入試での志望者350名(募集定員の1.09倍)、オープンスクールでの参加者は2回の合計で千人以上を目指す。	7月3日に実施した第1回のオープンスクールでは、中学校47校、中学生460名、保護者180名の参加があった。中学生保護者対象説明会には74名の参加があった。ホームページの更新はこまめに行われており、閲覧数は異年上位にある。	b	10月15日に実施した第2回のオープンスクールでは、中学校41校、中学生281名、保護者93名の参加があった。また保護者対象説明会には33名の参加があった。中学校訪問やホームページの更新を行い、積極的に情報発信を行うことができた。	b
		地域貢献を通じて開かれた学校づくりを行う。活動内容を発信し、魅力を広く伝える。	ホームページを使用して地域貢献の実践内容を中学生や保護者に発信する。活動内容を通じて入学志願者が増加する。	西阿知地区清掃奉仕活動に加えて、地域連携を図るために実施した第一中学校生徒工業体験実習(M・O・A科)や科独自で実施された貢献活動(C・E科)の活動内容をホームページに掲載できた。全科の掲載に向けて今後も依頼を続けていく。	b	西阿知地区清掃奉仕活動に加えて、学科の特色を生かして実施された社会貢献活動の内容をホームページに掲載し、地域や中学生、保護者に知らせることができた。	b
	(3) 奉仕の心を育て、社会貢献活動に積極的に取り組むことで地域との連携を進める。	保護者対象の進路説明会の実施、進路新聞の発行、進路三者面談等で情報提供等を行う。	保護者への情報提供をタイムリーに行う。	学年団と協力し家庭にも情報提供している。	b	担任、係から家庭に対して細やかな情報提供ができた。	b
		社会貢献活動を通じて本物を目指し、職業人として地域に貢献する人材を育成する。社会にも理解を求めながら地域の教育力向上に努める。	社会貢献活動に積極的に参加する。	校外からの案内が少なく、積極的な参加には繋がっていない。その中でも昨年度よりは部活等でのボランティア参加が増え始めている。また、自宅を取り組める夏のボランティア体験事業に85名の生徒が現在、取り組んでいる。	b	参加できる案内が少ない状況ではあったが、積極的に参加しようとする生徒の姿が見られた。西阿知地区清掃奉仕活動、夏のボランティア体験事業などには多くの生徒が参加した。	b
6 安全な教育環境づくり (危険予知能力を育成する)	(1) 5S運動を推進し、安全教育の徹底を図る。	安全点検を毎月実施し、修理・改修が必要な箇所を明確にし、破損箇所0を目指す。拾得物件の減少を目指す。	安全点検を、5月から毎月10日に実施し、修理・改修が必要な箇所を把握し、破損箇所がない。拾得物件が50件以下となる。	良好な状況である。	b	安全点検において、故意の破損はないが、老朽化による修繕は数カ所あった。ただ、予算の関係上、未修繕箇所もあるのが現実である。拾得物は昨年と同程度である。	b
		疾病予防のための指導を行う。	コロナ・インフルエンザ等の感染症予防のため、常時消毒用アルコールを設置する。	継続して行われている。	a	継続して実施することができており、今後も継続する。	a
	(2) 危機管理・防災教育を徹底する。	緊急を要する生徒への対応についての講習会を実施する。	緊急を要する生徒への緊急時対応についての講習会を年1回実施する。	多くの参加者(教職員・生徒)で講習会を行うことができた。	a	緊急対応の講習会を協力して行うことができた。	a
		防災訓練や防災LHRをととして、防災に関する知識を深め、危険予測に基づいた判断力や行動力を養う。	防災訓練を年2回実施、抜き打ち地震訓練、防災LHRを実施し、防災意識の向上が認められる。	良好である。	b	火災と地震を想定したグラウンドへの避難訓練を5月と11月に実施した。なお地震の直後に大津波警報が発令されたことを想定し、2階以上の高い所への避難訓練も実施した。	b